

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年2月7日(土)

### 《温かい心を持って生きましょう》

私たちは、生きている間に、いろいろな生き方を見ます。

皆様にとって、一番魅力的に見える生き方は、どのような生き方でしょうか。"このような生き方をしたかったけれど出来なかった"と思われる生き方は、どのような生き方でしょうか。私は、一番素晴らしくて人間的な生き方は、温かい生き方ではないかと思います。温かい心を持ち、できるだけそれを見せようとする生き方が、一番幸せな生き方になるのではないかと思います。様々な生き方の中で魅力ある道はけっこうあります。しかし、その中で一番素晴らしい、成功した生き方は、何があっても温かさを見せる生き方ではないかと思います。少し損になっても、少し犠牲を払う気持ちになっても、そのもとに温かさがあれば何でも温かく考えられると思います。

今日の福音(マルコ6・30-34)を読むと、イエス様が見せてくださったいろいろな素晴らしさが書かれています。聖書を読めば読むほどいつも感じるのは、イエス様の人間的な魅力です。それは、やはり温かさから来るものではないかと思います。

今日の福音で、イエス様はものすごく疲れていますね。そして、弟子達と一緒に休むために、舟を借りて静かなところへ行きました。しかし、見つかってしまい、たくさんの人々に追いかけられます。その人々を見ると、飼い主のいない羊のように見えたので、"疲れているが仕方ない"と思われ、人々が求めるものを与えようとされます。その温かさは、いわゆる憐憫の心であり、哀れみの心です。聖書には、いつもイエス様の哀れみ深さが書かれています。私たちも、そのようなイエス様に倣って生きようとするのが、信仰の道ではないかと思います。そのためには、出来るだけ温かさのある生き方をしようとするのが、何よりも必要です。では、その温かさはどのように表せるのでしょうか。それには、条件があります。一人だけの世界で温かくしていても、それは誰にも分かりません。相手が必要です。温かさは、必ず相手が必要です。自分だけ"温かい!温かい!"と言っている意味はありません。必ず相手を探して(探さなくても関わってしまうのが私たちの人生ですが)、出来るだけその相手に自分の温かさを見せようと努力すること、それが信仰の道ではないかと今日、もう一度考えてみました。

ありがとうございました。